

D-20

アトピー性皮膚炎に対する補陰薬（玄参、地黄等）の効果

1) 東洋堂土方医院、 2) 四川省中医研究院、 3) 大阪市立大学医学部小児科学教室
○土方康世¹⁾、陸 希²⁾、塚本祐壮³⁾

【目的】 難治性アトピー性皮膚炎（以下AD）患者で、中医学的に著明な陰虚（体内の正常な水液の不足があり、顔面紅潮、手掌、足底のほてり感、口渇、盗汗、いらつき、不眠、多夢等の症状がある）の症状は少ないが、主要処方（加味逍遥散加減、柴苓湯合茵陳蒿湯加減、消風散加減等）のみでは効果が不確実な時に、補陰薬（玄参、地黄、土別甲、麦門冬等）を補足することによる効果をみた。

【対象】 20才-26才男性4例。いずれも医師からADと診断されている。一例は生下時からのAD。ほかは3年以上のAD歴がある。

【方法】 各々の症状にしたがって加味逍遥散加減、柴苓湯合茵陳蒿湯加減、消風散加減等を主要処方として服用し効果を見たあと、補陰薬の補足効果をみた。

【結果】 全症例とも主要処方のみでは時折悪化が見られ、服用前に比べると改善されているが、効果が不完全であった。そこへ補陰薬を補足させると著効を得た。

【考察】 機序について考察すると、ほぼ全例が中医学的には湿（湿疹、搔爬すると水疱、びらん、滲出液が生じる）、熱（温まると痒い、患部が赤い）を有している。したがって清熱除湿作用のある加味逍遥散加減、柴苓湯加減等が一定の効果を示したものと推察される。しかしこれらだけでは治療は不完全であることから、中医理論に久病必虚とあるように、ADでは長い罹病期間の間に身体が疲弊し陰虚となることがあるのだろう。そのため補陰薬補足によりいっそう改善されたと考えられる。ただしADの場合は湿熱と陰虚が併存することが多い。また補陰薬は多量投与で除湿の妨害をするから、まず湿熱をある程度除いてから補陰薬を補足の方が有効性が期待される。今後、補陰薬の効果についてさらなる検討を加えたい。

【結論】 難治性アトピーに、補陰薬補足で有効例があった。